

地域組織の確立で
会員間の絆の促進を

JAMシニアクラブニュース

第146号

発行日 2019年10月25日

発行者 JAMシニアクラブ

mail jam-senior@jam-union.jp

発行所 東京都港区芝2-20-12 友愛会館11階 JAM本部内 〒105-0014 電話03-3451-2650 fax03-5440-7389

2019 全国高齢者集会

安心して暮らせる社会をつくる 元気にデモ行進でアピール

9月17日、退職者連合主催の「2019全国高齢者集会」が文京シビックホールで開催されJAMシニアから29人が参加した。

集会は主催者代表・人見会長の挨拶で始まり、神津連合会長、枝野立憲民主党代表、玉木国民民主党代表、福島社会民主党副党首が挨拶、基調報告、集会アピールを採択し秋晴れのもとすっかり恒例となったデモ行進を水道橋元町公園まで行い元気にアピールした。

高齢者集会は、30代 構成の創作太鼓・暁鼓 から70代までのメンバー 遊会(あかつきこゆう 迫力のある太鼓の響き



とハチさばきのオープニングに魅了され開会。続いて秋谷千代子さん(高崎市役所退職者会)

日本は、気候変動対策として国民に「非常事態宣言」を出すべきではないでしょうか。今日の状況は気候変動の対応は避けて通れないからです。

「これからの10年が人類の未来を決めるといっても過言ではない。産業革命まえから地球は1度上昇、2030年に1.5度未満に抑えないと地球が「灼熱地球」に変化してしまう危険がある」(ポツダム気候環境研究所共同所長のヨハン ロックス トロームさん)。温室効果ガスの排出量が増えれば温暖化していくことは科学的に明らか。「1.5度を超えて温暖化していくと、どこかで後戻りできない変化が起きてくる」

命を守る行動に立ち上がろう

あと10年時間がない

JAM愛知シニアクラブ会長 吉田 博

と、どこかで後戻りできない変化が起

主張



と、日本学術会議で緊急メッセージを9月に

だと言っている「スウェーデンのグレタ・トゥーンベリ(16歳)さんは環境少女と呼ばれています。彼女は7月にフランス下院で講演、8月には米国に渡り、9月に下院公聴会で証言し、国連の気候サミットでも演説しました。二酸化炭素排出量が多い中国、米国、

組み替え、労働者の生活費の補填をすすめるべきです。「ぜつめつ、絶滅寸前」の言葉にも無関心を装っている。充分分かっていないのに、知っているのに動こうとしない。軍拡競争、武器の調達では温暖化対策にはなりません。絶対になりません。

ご冥福をお祈りいたします
JAM秋田シニアクラブ会長
松江四郎さん76歳



9月11日闘病治療の甲斐もなく逝去されました。JAM秋田結成に尽力し初代JAM秋田執行委員長とJAM会計監査を歴任、退任後はJAM秋田シニアクラブ会長として活動してきた雄姿が偲ばれます。生前のご厚誼に感謝し心からご冥福をお祈りいたします。

インド、ロシア、日本の上位5か国は含まれず、50年迄に「実質ゼロ」を約束している77ヶ国の二酸化炭素排出量は地球全体の半分にも満たない。これでは30年に上昇1.5度に抑えられる可能性は50%。許容レベルは8年半も持たないと指摘されています。

二酸化炭素排出量の7割が企業活動によるものです。思い切った手を打たなければなりません。一日の働く時間を4時間または週休4日制、休耕地を耕し、植林作業を進め、国は、与党、野党、政労使、国を上げて進めるため、国の予算の

で会場全体が笑いに包まれ和んだところで主催者代表の日本退職者連合・人見一夫会長が登場した。

冒頭、人見会長は自然災害に被災された方々へのお見舞いと支援を表明、政府が進める2020年度予算編成の核心にふれ「安倍政権はトランプ大統領との約束、イージスアショアなどの兵器購入で防衛費を大幅に伸ばそうとしている」と指摘、「国民生活に欠かせない年金、医療、介護、子育て予算を抑制し社会保障費を抑え込もうとしている。国民生活第一の予算となっていない」と批判した。そのうえで、「退職者連合は持続可能な社会保障制度(裏面へ続く)



「年間643万トン、毎日茶碗1杯のごはんを廃棄している」というショッキングな実態を知らされた。2019年9月8日に富山県富山市のゆくとりあ越中で開催した「JAM

富山 3050運動など富山県の食品ロスの取り組みを学ぶ

村上 和幸通信員

富山シニアクラブ研修会」での講師からのコメントである。富山県は、「現在、県民一人1日あたり約110グラムから半減させる目標を立てて取り組みをすすめている。JAM富山シニアクラブでも重要な課題と認識し「食品ロスと富山県の取り組みをテーマに」富山県生活環境文化部 環境政策課 廃棄物対策班の松本卓大氏を講師に招いて研修会を実施した。研修会では「食品ロス

の構築をめざして政策制度要求を政府、各政党への要請行動で要求の実現をめざしていく」と臨時国会への対応を述べた。また「安倍政権は党人事と内閣改造で憲法改悪に向けた体制をつくった。国民生活第一の政治を求めて政治の流れを変えるため取り組みを進めている

く。力を合わせ全力で闘いましょう」と挨拶、その後、神津里季生連合会長はじめ来賓の政代表から激励と連帯の挨拶を受けた。今年の内閣府エイジレスライフ実践事例の社会活動事例表彰では「かるた道を歩む」として滋賀退職者連合・増田勝治会長が表彰さ

れた。増田さんは挨拶で近江神宮と百人一首の天智天皇の句を披露、かるたに纏わる逸話とご本人のかるたへの思いを語っていた。地域からの活動報告では近畿ブロックから今年で23回目を数え、実に参加者1500人以上の規模で開催している「五国・兵庫三播



の定義」「環境や家計への負担という問題点」「富山県の特徴」など、現状認識をはじめ、「食品ロスを出さない、リデュース」「食べ物を大切にすか、リユース」「食べ残しなどを上手に使う、リサイクル」など、具体的な取り組み方法を学んだ。とりわけ、立山の標高3015メートルにちなんで、宴会開始3

磨の国世界文化遺産白鷺城」の探訪が紹介された。その後、基調報告、「高齢者は社会の現役としてこれからも積極的に行動し、社会に向かつて発信を続ける。そのため仲間を増やし取り組みの強化・発展をめざす」とする集会アピールを採択した。



0分と終了15分前に食事を済ませる3015運動など、私たちが実践できる取り組みが紹介された。また、流通業界の商習慣を踏まえて消費者としての心がけとして「手前の商品からの購入」「欠品しても仕方ないと考える」「消費期限と賞味期限のちがいを知る」などが紹介された。

「高年齢者は社会の現役としてこれからも積極的に行動し、社会に向かつて発信を続ける。そのため仲間を増やし取り組みの強化・発展をめざす」とする集会アピールを採択した。

京都シニア第19回定期総会を開催

伊藤 忠男通信員



50名が参加した。

はじめに、JAM京都シニアクラブを代表して、木村正次会長は「参議院議員選挙の結果は、非常に残念な結果となったが、今後とも私たちが安心して暮らすために、各グループで常日頃から健康談話や私たちが高年齢者を取り巻くさまざまな課題、国会情勢などについて活発に意見交換が交わされていた。最後にこれからの会員相互の健闘を確認し閉会した



らせる社会保障制度の確立と年金の減額をさせない取り組みを進めていかなければならない。継続は力なりである。安倍政治を転換させることをめざして政策実現活動を継続的に取り組んでいこう」と訴えた。来賓としてJAMシニアクラブの大山勝也会長、JAM京滋の鈴木書記長からあいさつをいただいた。その後、2019年度の活動経過報告と会計・決算報告などを確認した後、2020年度活動方針案と予算案について審議し、いずれも満場一致で承認された。また、新年度の役員選出が行われ確認された。総会終了後に開催した定期総会参加者による懇親会では、各グループで常日頃から健康談話や私たちが高年齢者を取り巻くさまざまな課題、国会情勢などについて活発に意見交換が交わされていた。最後にこれからの会員相互の健闘を確認し閉会した